

一級河川の都市
加古川

水を訪ねるコース

コンセプトポイント



1 新井緑道

加古川町大野と野口町水足の新井用水(しんゆようすい)沿いに整備された散策路。新井用水は、1656年、今里傳兵衛(いまざとでんべい)が干ばつで苦しむ人々のために開削した用水。新井の井は「ゆ」と読み、これはあまりにその流れが遅く、日に照らされた水が温まったからだと伝えられている。用水沿いには木々が植えられ、自然を感じながら散歩することができる。

チェックポイント 昔の人々の農業を支えた新井水路を眺めながら散歩することができる。



2 加古川左岸河川敷(神野地区)

加古川の河川敷。このあたりは野草・花のひろばがあり、多様な植物や生物を観察することができる。舗装された道路は県立加古川河川敷マラソンコースとなっており、平日・休日問わずジョギングや散歩を楽しむ人も増えてきている。

チェックポイント 加古川の自然と流れを楽しむ事ができる広場とマラソンコース。



3 太子岩

607年、聖徳太子は推古天皇から加古川下流の土地100町を貰い受けた。聖徳太子が加古川からその100町の土地までの用水路を作る際、堰を設置する基準にした岩だと言われている。1989年に加古川大堰が完成するまで、この用水は1,000年以上にわたって加古川下流域の田畑を潤し続けた。現在、太子岩の大半は土砂に埋まり、岩の一部しか見る事はできない。

チェックポイント この太子岩から流れた用水は周辺の5つの地域を潤したことから、五ヶ井と呼ばれるようになった。



4 加古川大堰

長さ約422メートルで、加古川左岸の八幡町から右岸の上荘町に渡っている堰。治水と水需要に対処するため、9年の歳月を経て平成元年3月に完成した。大堰上流では加古川市民レガッタなど各種行事が行われている。左岸にある大堰事務所の南側には大堰記念公園があり、加古川の流れを望む憩いの空間となっている。

チェックポイント 両岸には、魚道が整備されている。遊泳能力の高いオイカワ、アユ等が見られる。



5 曇川

加古川の支流で、遠く稲美の地まで流れている川。古くから農業用水を取水するのに重宝されてきた。川岸の工事により、一時は希少な生物を確認することができなくなったが、近年地元の人々の取り組みにより浄化が進められており、いろいろな生き物が観察されるようになってきている。

チェックポイント 近年では、メダカやトンボ、フナに加え、モズガニなども見られる。



6 平木橋

昔から農業用水の確保に苦労してきた地域のため、この橋は1915年に神戸の淡河川と山田川から、平木池へと農業用水を引く疎水事業の一環として建造された。しかし、疎水事業の端に位置していた平木池が貯水池としての機能を発揮できなかったため、1940年代には平木橋も放置されるようになった。その後、2009年に東播磨南北道路建設のため現在の場所に移築された。

チェックポイント 水不足と闘った地域の歴史を象徴するシンボルとして2010年3月に加古川市有形文化財に指定されている。

明るく開けた平野に壮大な一級河川を抱える街、加古川。
その水は加古川のまちに多くの恵みをもたらしています。
奈良時代から流れる川や江戸時代に開削された水路など
人々の生活を潤し続けてきた水を訪ねて歩いてみませんか？



©That's & Trial 2010
 0 100m 200m 300m 400m 500m